

やさしい病害虫講座 22

「ウバメガシの病害虫-1」

木村 裕

生垣の樹木で最もポピュラーなウバメガシについて病害虫を紹介します。

【クロケシツブチョッキリ】

新芽が開き始めると、まず真っ先にやってくる害虫です。新芽の先端が萎れたり、黒くなって枯れたりするのが特徴で、決して霜にあたって枯れたものではありません。

長さ3ミリ前後の灰色の甲虫で、頭の先が象の鼻のように前に長く突き出しています。その先端部に口があり、柔らかい新芽にかぶりつきます。そのため、そこから先の新芽の部分は萎れて枯れてしまいます。



1匹の虫が新芽をつぎから次へと食い散らかしますので被害が増えます。人の気配を感じると手足を縮めて落下する習性がありますので、なかなか姿が見られません。まず被害部の下に手を広げて受ける体制をとり、枯れた芽に手を触れると虫はぼろりと落ちてきます。



【マイマイガ】

ツツジの項で紹介しましたように5月の連休頃から発生します。背中に黄色の斑紋をもった黒い毛虫で葉をかじります。小さい頃は食べる量も少

ないので発生に気づくのが遅れ勝ちになります。

成虫はモンシロチョウよりも大きな蛾で、前年の夏頃に太い幹や近くの人家の壁の上に数百個の卵を一塊にして産みつけます。その卵が4~5月頃にふ化し、幼虫の毛虫はその近くの葉に取り付きますので、垣根全体に発生するのではなく、ある部分に集中して姿が見られます。

1ヶ月もすると私たちの指くらいの大きさになり、青色や赤色、黄色などの毛や斑紋で着飾った美人になります。この頃になるともりもり葉を食べますので垣根が剥げ坊主になります。見つけしだいピンセットか割り箸で捕らえて処分してください。毛虫の毒はそれほど強くはありませんが、触らないほうが安全です。



【オオトビモンエダシャク】

5~6月、暗褐色の大型の毛虫が数十匹、枝の一部に群がって葉を齧ります。そのためあつと言う間に葉が食い尽くされてしまいます。

小さい頃は赤褐色ですが、成長するにつれて黒くなってゆきます。毛虫ほど長い毛はありませんが短い毛がいっぱいあります。この毛には毒はありませんので、手で捕まえて処分してください。虫が怖い人は枝ごと切り取るのも一つの方法です。

